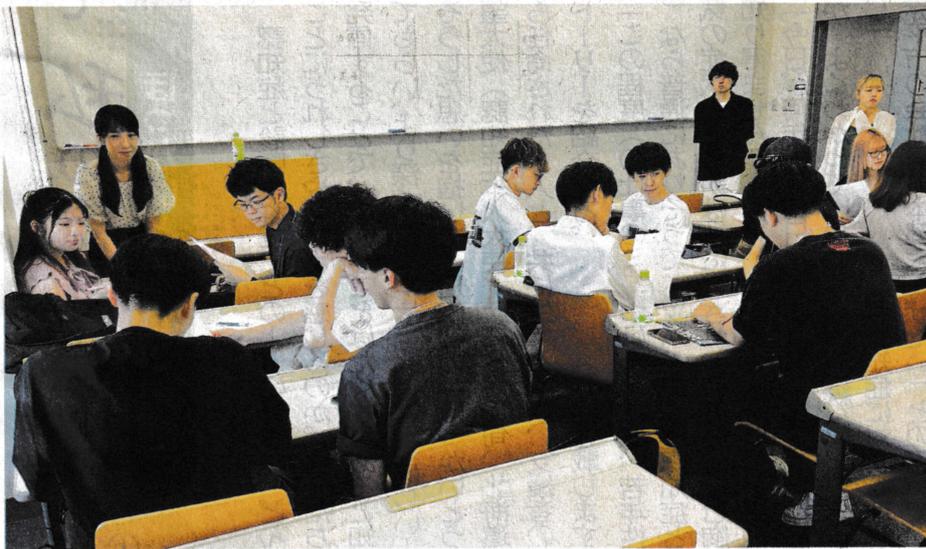


【芦別】芦別の魅力について札幌圏の大学生と市民と一緒に考えるイベント「好き×芦別 『好きの降る里プロジェクト』」が12日から3日間、市内で開かれる。最終日の14日には、学生グループが発表会を行い、芦別をPRするキャッチコピーなどを市に提案する。

きょうから3日間滞在



札幌圏の大学生 芦別の魅力発掘

主催は北海学園大経営学部佐藤大輔教授のゼミでマーケティング理論を学ぶ2、3年生6人と芦別青年会議所(JCC)。同ゼミの学生たちは昨年9月にも、札幌の他大学の学生を招いて「芦別市地方創生アイデアコンペティション」を市内で開催し、市に地域活性化策を提案してきた。

第2弾の今回は、札幌圏の4大学から1〜4年生計25人が参加。6グループに分かれた学生は、「芦別の好き」をテーマに市民から思い出やエピソードなどを聞き出し、芦別の魅力や特長をキャッチコピーにして発表する。コンペ形式で行い、最優秀のグループには賞金5万円などを贈る。

8月下旬〜9月上旬には北海学園大で事前研修イベントの事前研修でグループワークする参加学生たち(9月3日、北海学園大内の教室)

市民と交流 キャッチコピー14日発表

が計3回開かれ、参加学生は芦別の企業関係者や佐藤教授から芦別についての基礎知識や、発表手法などについて学んだ。12日から2泊3日で芦別に滞在し、12日は地元中高生と、13日は小学生と保護者、企業関係者と交流。14日に練り上げた最終案を市総合福祉センターで発表する。コンペの審査は来場者全員が投票して行う。イベント事業費は約130万円。学生からの参加費と市のまちづくり推進事業補助金、市内企業からの協賛金で調達した。午後3〜5時で、当日は誰でも入場できる。

主催する学生グループの代表で北海学園大3年の佐藤涼貴さん(20)は「芦別市民の皆さんから自分たちが気づいていないマチの魅力を引き出して、市内外に伝えることで、地方創生のきっかけにしたい」と話している。

(宋戸透)